

## 実態調査班＝日雇労働市場研究会の活動報告

1. 実態調査班＝日雇労働市場研究会（責任者 大友福夫）では、去る1月27日（土）后3時半より神田校舎第1研究室で、今後の調査ならびに研究のすすめ方についての打合せ会を開いた。ここでは主として実態調査に至るまでの準備について話し合わせ、①従来の研究業績の検討とくにさしあたり、江口英一・向山耶幸共同執筆の論文「日雇労働者」（講座『労働経済』I所収）を検討する。このためにこの論文を各自で読んでおいたうえ、次の研究会では執筆者の江口氏に来て頂いて日雇労働市場についての報告を聞く。②第1次資料をできるだけ蒐集する。③土建業調査のためこの方面に関係をつけておく、等がきめられた。
2. 1月27日の打合せ会での決定通り去る2月16日（金）后4時半より神田校舎四階談話室で、これまで日雇労働市場研究で多くの注目すべき業績をしめされている江口英一氏（日本女子大学教授）に「日雇労働市場（とくに建設産業における）研究の問題点」についての報告を聞いた。江口氏は日雇労働市場において建設労働者が圧倒的多数を占めて来ていることを具体的な数字でしめされ、日本における停滞的過剰人口において建設業で働らく日雇労働者がますます重要な位置を占めて来ており、このことが日本の賃金水準決定にも重要な影響を与えているであろうとのべられ、さらに氏は、建設業における日雇労働者の特殊性を建設産業の性格から具体的に説きおこされ、建設業における日雇労働市場調査の問題点を浮彫りにされた。そのあと出席者から質問が出され討議は午後8時過ぎまで熱心に続けられた。

なお、この席上次回は、来る3月19日（火）、大阪の釜ヶ崎とならんで日本における停滞的過剰人口の集中地点である東京の山谷を訪ねることがきめられた。（加藤〔佑〕記）

### < 編集後記 >

本号には、望月清司、加藤幸三郎両氏の論文を掲載しました。望月氏のは、戦略目標の設定というきわめて実践的な課題を担った労作であり、加藤氏のは、地主制研究史の反省もしくは批判のうちに今後の研究方向を示唆した労作です。読者諸兄のご注目をいただけるものと思います。両氏の論文に共通する論争の文体 — これは今日的で尖鋭な問題意識から発したものです — に触発されて、多数のポレミク・ライターが本誌に登場されることを期待します。

（事務局：宮坂・宮下記）

東京都千代田区神田神保町3の8

専修大学社会科学研究所 電話（265）6211～20〔内線53〕

（発行者） 小林 義 雄